

2013 年度（第 3 事業年度）

「事業報告書」

一般財団法人 Ruby アソシエーション

1 事業の概要

Ruby は昨年 2 月にはその開発から 20 年を迎えるとともに、5 年ぶりのメジャーバージョンとして Ruby2.0 がリリースされ、Ruby は新たな時代へと突入しました。

2013 年度は、こうした背景を元にした Ruby のビジネス利用の拡がりとともに、一般財団法人 Ruby アソシエーション（以下、「当財団」と言う。）への期待も高まった一年でした。当財団は、その目的である Ruby 関連のプロジェクトやコミュニティ、ビジネスの関係をより良好なものとし（「Ruby Eco System」の構築）、ビジネス分野における Ruby の利用に関する諸課題の解決に取り組みました。

本書では当財団の 2013 年度の実施状況について報告します。

2 体制及びその変更

1) 評議員

2013 年度評議員

- ・ 出田 健二 (株)まちづくり三鷹 経営事業部企画事業グループマネージャ
 - ・ 及川 喜之 (株)セールスフォース・ドットコム CTO
 - ・ 大場 寧子 (株)万葉 代表取締役社長
 - ・ 後藤 裕蔵 (株)ネットワーク応用通信研究所 取締役
 - ・ 最首 英裕 (株)グルーヴノーツ 代表取締役社長
 - ・ 石川 明 (株)日立ソリューションズ 技術統括本部 副統括本部長
 - ・ 立久井 正和 (株)インターネットイニシアティブ
サービス本部 プラットフォームサービス部長
 - ・ 中島 宏 (株)DTS IT インテグレーション事業本部 IT プラットフォーム部 部長
 - ・ 羽田 昭裕 日本ユニシス(株) 総合技術研究所 所長
 - ・ 平松 知江子 (株)富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ
ソリューション戦略本部 本部長
 - ・ 森 正弥 (株)楽天 執行役員 兼 楽天技術研究所 所長
 - ・ 吉岡 宏 (株)テクノプロジェクト 代表取締役社長
 - ・ 吉田 正敏 富士通(株) プラットフォーム技術本部 チーフストラテジスト
- ※2013 年 12 月の正村勉評議員（当時）の辞任により石川氏が評議員に就任。

2) 理事

- ・ 代表理事 理事長 松本 行弘
 - ・ 副理事長 井上 浩
 - ・ 理事 山根 泉
橋本 明彦
田中 和明
笹田 耕一
- ※2013 年 6 月の澤田盛繁理事（当時）の辞任により山根氏が理事に就任。

3) 監事、顧問及び事務局

- ・ 監 事 今岡 正一（公認会計士）
- ・ 顧 問 松浦 正敬 松江市長、溝口 善兵衛 島根県知事
- ・ 事務局 前田修吾（事務局長）が事務局業務全般を統括し、常勤スタッフ 2 名の他、松江市、島根県による人的支援によって運営しました。その他、事例収集のため外部のライターと、規格文書の保守および改訂の作業のため外部の専門家と契約を行っています。

4) 評議員選定委員会

- ・ 委員長 立久井 正和（評議員）
- ・ 委 員 今岡 正一（監事）、横田 早百合（事務局員）、
田代 秀一（外部委員）、高橋 征義（外部委員）

3 実施事業

1) 公募型開発支援プロジェクト

Ruby 及び周辺環境の改善を目的に Ruby 処理系、ライブラリ及びフレームワークに関連する開発プロジェクト（既存のソフトウェアを改良するプロジェクトを含む）を公募し、グラント委員会で選考の結果、以下 3 件のプロジェクトを採択しました。

いずれも 2014 年 3 月 31 日までに開発を終え、その成果を公開しました。

- ・ 公募期間：2013 年 9 月 5 日 ～ 10 月 7 日
- ・ 応募件数：8 件
- ・ 採択件数：3 件

①採択者：Daniel Berger	プロジェクト：Win32Utils Support
Win32Utils は Windows オペレーティングシステム向けに一連の Ruby ライブラリーを提供するプロジェクトです。このプロジェクトは既にいくつか存在している Win32API ライブラリーを FFI や OLE に移植することをゴールとしています。これによって、JRuby のような他の処理系との互換性を向上させ、コードをより堅牢なものにします。	
②採択者：Laura Garcia	プロジェクト：Conductor
Creosote プロジェクトは Ruby エコシステムで利用可能ないくつかの強力な数学ライブラリーを開発します。現在は、数学的 GMP、MPFR、Msieve ライブラリーの Ruby バインディング(C拡張)をメンテナンスしています。今日、これらのライブラリーは別個の gem で提供されており、お互いのライブラリーの存在を認識しにくくなっています。これらのライブラリーを含めて、より多くの数学ライブラリーを含む Creosote プロジェクトを成長されることを目的としています。	
②採択者：Kouji Takao	プロジェクト：Smalruby - smalruby-editor
Smalruby（すもうるびー）とは、小学校高学年から中学生向けの Ruby 学習環境を提供するためのプロジェクトです。本プロジェクトのゴールは Scratch(http://scratch.mit.edu/)のようなソフトウェアやコミュニティサイトを Ruby で実現することです。Scratch は小学生でも使える教育用のプログラミング環境として実績があります。本プロジェクトは次のソフトウェア、ハードウェア、ドキュメントから構成されます。2013 年度助成金事業ではこのうち smalruby-editor を開発します。	

2) Ruby 安定版保守事業

ユーザが安心して Ruby を利用できる環境を構築するため、Ruby 安定版の保守事業を実施しています。事業仕様策定後に業務を外部機関に委託することと、委託先の選定に際し公募を行った結果、株式会社 TOUA に決定いたしました。委託期間 2014 年 3 月 31 日までです。

3) Rubyに関する情報発信事業

(1) Webでの情報発信

協賛会員をはじめ、Ruby をビジネス利用する企業に利用事例作成編集の担当スタッフが当該企業担当者に直接面談し、概要情報と詳細情報の作成を行いました。これらの情報は、利用時の背景事情、適用されたビジネス・システム分野やその特性など、利用企業のみならずエンドユーザ(企業や個人の場合あり)の損益にも深く関わる場合があることから、公開前に利用企業等による内容確認を実施し(その際にエンドユーザに了解を得ることもあった)、関係者合意の上で財団ホームページに掲載しました。2013 年度は新たに 4 件の利用事例を紹介しました。

2013 年度 新規掲載企業	テーマ
株式会社アールラーニング	エンジニア達の思いから始まった勤怠管理システム「新月-SHINGETU」
株式会社 DTS	Ruby とクラウドサービスで実現した EC 決済共通基盤
株式会社クレオネットワークス	クラウド型 BPM ツール「BizOne/BizPlatform」シリーズとして提供
株式会社日立ソリューションズ	Ruby の高い生産性で実現したリメディアル教育システム

(2) RubyWorld Conferenceの開催

2013 年 11 月 21 日(木)、22 日(金)、島根県立産業交流会館「くにびきメッセ」(島根県松江市)にて 5 回目となる「RubyWorld Conference 2013」を開催しました。主催は、RubyWorld Conference 開催実行委員会(構成機関:当財団、島根県、松江市、島根大学、松江高専、ジェトロ松江、しまね産業振興財団、島根県情報産業協会、しまね OSS 協議会、経済産業省中国経済産業局)、その他、多くの機関の後援、協賛をいただき実施しました。

今回の国際会議では、Ruby に関するビジネス利用事例や、最新技術の情報、開発者教育の状況などを紹介する様々なセッションを通じて、Ruby がより多くの領域に普及していくことを目指し、国内外 16 名が講演し、来場者数は 2 日間で延べ 901 名(詳しくは下記を参照)を数えました。

オープニング・セレモニーで、まつもと実行委員長、溝口善兵衛島根県知事、松浦正敬松江市長の挨拶に続き、経済産業省商務情報政策局 小池雅行 地域情報化人材育成推進室長に来賓ご挨拶をいただきました。

引き続き基調講演では、Ruby の開発者まつもと委員長が「Aiming the Moving Target」と題し講演。また、2 日目の基調講演では、GitHub Inc.の共同創業者兼最高経営責任者(CEO)、Tom Preston-Werner 氏が「The Internet Axiom: Escaping the Tyranny of Time and Space」と題して、ビジネスにお

けるインターネットの有り方についてご講演いただきました。

初日の午後は、新たに Ruby コミュニティに貢献した方の活動を表彰する、「Ruby コミュニティの新人賞」として、今年からスタートした Ruby Prize 受賞者の発表と表彰が行われました。

その他、国内外の Ruby の技術者、企業関係者が講演し Ruby の更なる普及・発展に向けて活発に議論がなされました。

なお、クロージング・セレモニーでは、井上浩 実行委員会副委員長が、2日間の議論を振り返るとともに、来年の Conference の開催意向を表明し、閉幕しました。

●来場者について

2日間延べ 901名（11月21日 491名、11月22日 410名）

来場実数 619名（県内 231名、県外 380名、海外 8名）

- ・IT企業関係者 392名（県内 101名、県外 285名、海外 6名）
- ・その他企業関係者 61名（県内 39名、県外 22名）
- ・行政関係者 88名（県内 61名、県外 27名）
- ・研究教育機関関係者 33名（県内 16名、県外 17名）
- ・一般（所属なし） 29名（県内 12名、県外 17名）
- ・講演者 16名（県内 2名、県外 12名、海外 2名）

※Ruby Prize 含む

●講演者について

- ・国内 14名（企業関係者 14名）
- ・海外 2名（アメリカ 2名、いずれも企業関係者 2名）

（3）Ruby ビジネスセミナー

当財団の単独主催、又は関係機関との共催、協力を得てビジネスセミナーを5回開催致しました。これらのセミナーでは、Ruby の利用状況と今後のビジネストレンドをはじめ、開発現場で必要とされる技術情報など、開催地の状況に応じた話題提供をすることで参加者のニーズに合わせたセミナー機会を提供しました。また、セミナー後の質疑応答やセミナー後の意見交換の場など、Web 上だけではない「リアルなビジネス交流」の機会を提供しました。

各セミナーでは参加者にアンケートを実施し、情報発信事業に対する評価と当財団への要望も意見集約し、今後の事業内容の検討にも活用しています。

開催時期、会場	開催テーマ	来場者数 (名)	備考
2013年7月、東京	PaaS	約 100名	IIJ 主催に開催協力
2013年11月、東京	Ruby、Cloudビジネス	約 80名	単独開催
2013年12月、東京	技術者向けセミナー	約 80名	単独開催
2014年1月、大阪	エンタープライズ Ruby	約 90名	Ruby ビジネス推進協議 会が開催協力
2014年3月、松江	Ruby、Cloudビジネス	約 20名	単独開催

4) Ruby技術者認定試験事業

2013年度も、Rubyベースのシステムを設計、開発、運用するエンジニア、Rubyでシステム提案を行うコンサルタント、Rubyを教える講師などを対象とした認定試験制度を実施しました。

認定者は、Ruby技術者としての技術力を公正に評価され、高い水準のRubyによるシステム開発能力を持つことを認定されます。認定によりRubyベースでシステム開発を行ううえで必要な基礎的な知識と応用力をもつことをアピールすることができます。

試験の合格者は、当財団が「Ruby Association Certified Ruby Programmer」として認定します。現在は、国内(試験区分：Silver、Gold)、海外(試験区分：Silver)で実施しており、2012年10月より当財団が直営実施(CBT受験環境、オペレーションはプロメトリック社に委託)しており、安心して受験いただける環境を提供しています。

5) 事業者認定事業

従来から実施している認定システムインテグレーションプログラム(Rubyの高い技術力を持った企業を認定)に加えて、2012年10月から認定教育機関プログラム(Rubyの教育をおこなう高い技術を持った企業を認定)、認定サポート事業者プログラム(Rubyのサポートサービスを提供する高い技術を持った企業を認定)、及び認定クラウドサービス事業者プログラム(Rubyアプリケーションの運用に適したクラウドサービス(IaaS、PaaS)をおこなう高い技術を持った企業を認定)の各プログラムを実施しています。2014年3月31日時点での認定企業数は以下のとおりです。

認定種別	Gold	Silver
認定システムインテグレーションプログラム	18(15)	58(55)
認定教育機関プログラム	3(2)	—
認定サポート事業者プログラム	2(2)	—
認定クラウドサービス事業者プログラム	3(2)	1(1)

※()内は前年度数

6) 協賛会員事業

- ・会員資格

法人、任意団体及び個人

- ・会員種別、会費

年会費 1口 10万円(4月を開始月とします)

①Platinum Sponsor 5口以上(50万円以上)

②Gold Sponsor 2口以上(20万円以上)

③Silver Sponsor 1口以上(10万円以上)

2014年3月31日時点での協賛会員数は、以下のとおりです。

Platinum : 年間5口以上	Gold : 年間2口以上	Silver : 年間1口以上
12(9)	19(17)	41(30)

※()内は前年度数